

利神城跡保存活用計画策定委員会 会議議事録（概要版）

（令和元年度 第5回）

日 時	令和元（2019）年7月3日（火） 13：30～16：30
場 所	佐用町役場 会議室 301
出席者	<p><委員>※敬称略 任期：平成30年2月27日～令和2年3月31日</p> <p>藪 田 貫 兵庫県立歴史博物館 館長 【委員長】（欠席）</p> <p>北 垣 聰 一 郎 石川県金沢城調査研究所 名誉所長 【副委員長】</p> <p>西 形 達 明 協同組合関西地盤環境研究センター 顧問</p> <p>福 井 亘 京都府立大学大学院 准教授</p> <p>水 島 あ か ね 国立明石工業高等専門学校 准教授（海外赴任/欠席）</p> <p><地元委員></p> <p>森 本 實 文化財保護審議委員会 会長 【副委員長】</p> <p>永 井 薫 教育委員会 教育委員（欠席）</p> <p>福 井 泉 長谷地域づくり協議会 企画委員長</p> <p>五 名 和 雄 平福地域づくり協議会 会長</p> <p>井 口 覚 佐用町商工会 会長（欠席）</p> <p>北 村 広 樹 佐用町観光協会 会長（欠席）</p> <p>高 木 照 雄 平福文化と観光の会 会長（欠席）</p> <p>中 島 基 生 大字平福管理委員会 委員長</p> <p>松 本 洋 子 公募委員</p> <p>矢 代 成 生 郷土を考える会 会長（欠席）</p> <p><助言・指導></p> <p>山 下 信 一 郎 文化庁記念物課文化財調査官</p> <p>小 川 弦 太 兵庫県教育委員会文化財課主査</p> <p>山 上 雅 弘 兵庫県まちづくり技術センター 技術専門員</p> <p><事務局></p> <p>浅 野 博 之 佐用町教育委員会 教育長</p> <p>宇 多 雅 弘 教育課 課長（欠席）</p> <p>大 下 順 世 教育課企画総務室 室長</p> <p>藤 木 透 教育課企画総務室文化財係 副室長</p> <p>中 村 剛 彰 教育課企画総務室文化財係 室長補佐</p> <p>江 見 秀 樹 企画防災課まちづくり企画室 室長</p>

	<p>松 本 和 也 企画防災課まちづくり企画室 係長 (欠席) 戸 屋 雅 裕 商工観光課商工振興室 室長 大 上 崇 商工観光課商工振興室 室長補佐 (欠席)</p> <p><コンサルタント> 奥 村 信 一 (株)都市景観設計 代表 中 野 浩 幸 (株)都市景観設計 取締役 坂 田 奈美子 (株)都市景観設計</p>
議事等	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利神城跡等に関する経過報告 ・教育長あいさつ <p>1. 委員長あいさつ (代行：北垣副委員長)</p> <p>2. 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 第3回、第4回委員会議事録 (概要版) の確認 (2) 第5章～第6章の確認 (3) 第7章～第9章の確認 (4) 第10章の確認 (5) 次回予定 <p>閉会 森本副委員長</p>

— 議事内容 —

開会

・利神城跡等に関する経過報告

<事・大下>

昨年度は、10月に全体での委員会を開催の後、2月に専門委員による委員会を開いた。今年度は計画策定の最終年度と位置づけている。今日の会議で報告書の最終章までを議題とし、報告書案を策定したいと思っている。

策定委員会以外の事業としては、利神城跡の平面図を作成した。平成27年度に行った航空レーザー計測のデータを活用して地形図を作成したもので、保存活用計画に必要な図面となる。また、石垣カルテでは、昨年は石垣の立面オルソ画像とカルテの様式作成を行い、今年度は石垣の面ごとにカルテを作成している。

また、利神城跡の国史跡指定を契機に進めている「佐用の歴史と文化を磨く未来伝承プロジェクト」は、旧木村邸の活用、利神城跡のプロモーションビデオ作成等の平福イメージアップ事業など、さまざまな事業の検討を現在進めている。

2. 議事

(1) 第3回・第4回委員会議事録 (概要版) の確認

<北垣>

第3回・第4回委員会の議事録について了承

(2) 第5章～第6章の確認

<山上>

本質的価値に項目として石垣の項目を1つ入れてほしい。それから、山城の構造については、枡形虎口を持っていて、また慶長初期の縄張がよくわかる。そういう内容の文言もここで述べたほうがいいのではないかと。

「城が機能していた時代には雲突城と呼ばれた」。これは、機能していた時期に本当に呼ばれていたかどうか、確認したほうがいい。雲突城という言葉自体はあるので、ぜひこれは使ってもらいたい。

2ページの表、色塗りのところで、特に緑だが、色を合わせたほうがいいのかと思う。文章を見ると「山城主郭地区」と「山城主郭部」という2つの言葉が5章の中で出てきているので、その辺の文言の統一も必要。

別所構地区の東に松平家の陣屋跡と言われている長谷陣屋があって、そこも構成要素に入れたほうがいいのかと思う。

<山上>

本来、主郭というのは近世城郭では本丸のことだけをいうので、言葉的に誤解を与えないか。「山城地区」という呼び方が1章、2章、3章では国指定史跡の範囲になっている。この報告書の前半では「山城地区」と「平福御殿屋敷」とに分かれている。「主郭地区」と呼んでしまうと少し範囲が広いと思うので、言葉を変えたほうがいいのか。「山城地区」でもいいとは思いますが。

<福井(亘)>

山上さんの言われた「主郭部」のほうは、主体部とか主要部とか、何かうまく言葉を使うといいと思う。「山城」だと全体になってしまうので、せっきやく色分けされているので、その分は生かしてほしい。

資料編に用語などを入れてわかりやすくしたほうがいいのかと思う。もう1点は、表の5-1の上は図なので、「図5-1」という形ではないかと思う。「図5-1」の地区区分図が「図5-2」に当たるといってほしい。3ページの図5-1、5-2の部分は、右下の周辺地区の範囲と、上の塗っている周辺地区の色が合っていないような気がするので、同じようにしてほしい。

11ページ、眺望・景観のところ。3点、眺望点を出している。理由づけとして「ここはよく見えるから」という話だったと思うが、あまりにも主観的になってしまうので、もう少し客観的に「ここが地元からの眺望点として有名である」といった書き方にする。

<五名>

御殿屋敷跡の南側の石塁は、現状の石垣を多分書いているが、川まで続いていたので、現状は半分で仕切られているけれども、点線でもつけて、実はこれは佐用川のところで来ていたということを入れたほうがインパクトあるのではないかと。

<山上>

2 ページの表で、御殿屋敷地区の説明は「近世居館の中心部で」と書いてあるが、今言われたとおり南の石塁までが御殿屋敷で、そこから南は多分、城下町。発掘調査の成果でもそういうふうに出ているので、その辺の文言はちゃんと書いてほしい。武家の御殿屋敷地区、麓の居館部分と、江戸初期の恐らく城下町の両方が含まれている。

<小川>

山城地区の主要構成要素の中にある文言が後ろの地図に載っていなかったり、山城山林部にある「登城道」と「登山道」が混乱していたり、構成要素の位置がわかりづらいので、この表と後ろにある図面を少し整理してもらいたい。

<山上>

5 ページの表、城郭の保存活用に有益な要素と御殿屋敷地区の欄に「農道、川沿いの管理道」と書いてあって、「復元的に整備された佐用川護岸」と載っているが、復元的に整備した佐用川の護岸の石垣は場所が限定されている。8 ページの図を見てもらいたい。さっき言われた南石塁というのは川沿いまでずっと続いていて、そこはこの図でも破線を振ってほしいが、二重丸になっている川の部分だけがかつての石垣に似せた擬似の復元をしている。これは多分説明板か何かのマークだと思うが、ここを特に書くとともに、6 として写真があげられているが、ぜひ復元した時の写真を載せてもらいたい。

<五名>

8 ページ。これも当時の石垣を一部復元して石積みをしている場所で、北の石塁。こも載せてもらったらいい。

<山下>

5 ページの表、遺物・絵図の分類があって、利神城古図と古文書が書いてあって、かわりが深いことは間違いないが、この手の計画の中での分類については、指定地・現地にある有形・無形のもの。発掘で出た遺物を分類の中に入れるのはいいが、古文書はこれとは分けた形で記述するのがいいと思う。

<福井(亘)>

16 ページの表は、「表6-1」とか「6-2」というふうに入れたほうがいいと思う。それと、例えば1行目、「地盤の風化・斜面流出などが見られ」と書いているが、「・」では同列になるので、「地盤の風化と斜面流出」「石垣の崩落と変状」という形にしてほしい。御殿屋敷地区でも「竹ノ久保と宮谷周辺では」という形をとってもらおう。

写真は章ごとに見ていけば問題ないが、写真①⑥は例えば5章でも同じように使われているので、図6-1に対応していることがわかるよう文言を入れてほしい。

24 ページは「表6-1」と書いている。前段のほうを「表6-1」として、ここは(番号をずらして)「表6-〇」という形で書く。あと、表の外の部分で※で「太文字の項目は」とあるが、太文字というとフォントを大きめにしてゴシックで書いているところだが、保存管理や山城主郭地区もゴシックなので太文字に見えなくもない。ゴシックで書かれているところとの違いがよくわかるようにしてほしい。

<西形>

現状と課題の中で、表6-1で「危険箇所・実施する対策」で「住民・来訪者への周知」と書かれている。まずやるのはここだろうと思う。利神城を訪れる人々に非常に危険な状況にあるということを書いてもらいたい。これが一番重要だと思う。御殿屋敷地区のところでは、石垣崩落の場合は危険が及ぶ可能性があると書かれている。上の山城地区についても、そこをちゃんと強調して、表6-1では「危険箇所・実施する対策」の「住民・来訪者への周知」はゴシック体に値すると思う。

<北垣>

個人的見解だが、利神城の多くの特質も既に述べているが、よそにないものがここにはある。時代を超えて石垣の特徴が一見して違いがわかるところは、全国的に見てそうあるわけではない。その一方、西形先生が言われたように、危険この上ないところが実際にある。それに対応する措置をこれから継続的にとられるが、そこが一番気になるところなので、しっかりと書き込みをする必要があると思う。

<西形>

外国の場合は割合きっちり書いてあって、あなたの責任のもとで入ってくれと。そこまで書く必要があるかどうか議論が必要だが、そういうことがちゃんと書かれている。日本ではまだそういう明示をしているところはない。ぜひ明示するといいいのではないかと思う。

<中島>

保存管理の現状と課題ということで、1の保存管理の現状、山城主郭地区で3つ目の「管理委員会により地区の除草が実施されているが、石垣の危険箇所が多く、除草などの管理が十分でない」。これ、年2回ずつもう何十年とやっているが、一番危険だと思う。僕らの感覚と役場の感覚は少し違うのではないか。どこまで入っていいものか、役場のほうできっちりしたものでロープの張り直しなどをしてもらいたい。

<中島>

役場には行くなと言われていたけど、もう4年、5年前になるが、北の護岸が大分崩れているので、だんだん危険箇所が広がってくる。草刈りをする部分は狭くなってきたが、苦勞して刈っている。

<中島>

線引きしてほしい。

<北垣>

この城は価値が高いがゆえに、危険であればもっと注意喚起をする必要があると思う。恐ろしいから入るなということではなくて、それでも価値はあって、少なくともそれに対する対策も講じているけれども、なおかつ変形、変状が甚だしいという問題が併存していることが、このかなり大きな問題になってくる。まず、見学者にしっかりとした注意を喚起しておかないといけない。

<福井(亘)>

今言われた点、16 ページ、現状はちゃんと線引きがされていないということは明記したほうがいい。注意喚起ができていないということここをしっかりと明記したほうが

いい。それを踏まえて7章でこうすべきだということにもっていけると思うので、16ページでは、現状、危険箇所が確定されていない。だから、草刈りも危ないところをやったりということもある。それはここに書いておかないといけない部分だと思う。

<福井(亘)>

役場としてどこが危ないのかをしっかりとしないといけない。

<五名>

危険箇所だが、御殿屋敷跡は、日常、農道として非常に利用している人もいる。地元の人はどこが危険だということもある程度わかっているが、最近は団体も結構来る。我々が「うわがみ門」と呼んでいる柵形の虎口の石積みは、相当出ている。危険状態なので、万が一事故があったら誰が責任をとるのかという話になる。何らかの対応をしておかなければ、事故があつてからでは遅い。柵形の虎口の石積みを見て、何らかの対応をしてもらいたい。山城よりも、まず人がよく利用する場所を最優先でやってもらわないと心配だ。早急に何らかの形で対応してもらいたい。

<山下>

目次的な体裁のことだが、第6章、15ページは調査研究、16ページが保存管理、21ページが整備活用の現状・課題、23ページが運営体制の現状・課題、4つの観点から整理されている。こういうやり方が多いが、今、文化庁のほうで標準的な目次構成を示していて、これは保存活用計画なので、「保存」と「活用」が大きなテーマになる。保存管理の課題と、活用の現状と課題。「保存」と「活用」の2つが大きなテーマで、その次の「整備活用」は1つの言葉になっているが、保存をしっかりとするためにどんな整備をするのか、活用をしっかりとするためにどんな整備をするのかという論理立てになって、その全体をするために4番目の体制の話になる。目次的な体裁が「整備活用」という言葉で一緒になっているので、概念的に少し整理をしたほうがいいと思う。文化庁で示している目次も参考にして、少し整理してもらおうとありがたい。

<北垣>

「保存活用の課題」という言い方ではなくて、保存の課題、活用の課題、そしてそれぞれでどんな整備を進めていくのかということであると、目次の整理をもう一度検討する必要があるというお話だった。今話を入れながら、もうひと工夫お願いしたい。

(3) 第7章～第9章の確認

(第7章～第9章の説明)

<福井(亘)>

もう少しわかりやすく図化したらいいと思う。

28ページ、「4つの物語を再発見し、語り継ぐ」という大項目は非常にいいと思ったが、「4つの物語」というのは①の部分。中世利神城と宇喜多氏云々からずっと書いているが、僕のイメージだと4つが大体同じような感じで並んでいる。それぞれ文言に長短があつて、もっと端的にできないのか。もしくは情緒的に広げるのだったら、「中世利神城」だけでいいのかという気もする。せつかくいいキャッチフレーズをつくっているの

で、「4つの物語」をしっかり押さえてもらえるとうれしい。内容的にはこれでいいと思うが、キャッチフレーズがよ過ぎるので、その後の①があまりにも貧弱な感じを受ける。①②③と3つしかないように見えてしまう可能性がある。このあたりも図化しながら、もう少ししっかりと4つが①の中でこうなんだということを見せたほうがわかりやすい。

32 ページ、33 ページ、「石垣整備のてびき」というところは、どちらかという資料編に入ったほうがいいのか。それと同様に、37 ページから 40 ページもどちらかという資料編にしたほうがいいのかと思う。わかっている人はわかっていると思うが、資料として1-1につけているとか1-2につけているという感じで、本文の中に入れないほうがいいのかと思う。

9章、43 ページの表9-1も、御殿屋敷地区とか山城主郭地区で「除草・清掃」となっているのを、「除草、清掃」という形で全て変えないとわかりづらいと思う。それは43 ページ以降の表全て。

45 ページの2、整備活用。これから一番考えないといけないところだが、山城主郭地区とか山城山林地区の③と②、「安全な登山道の整備」の下に「安全対策整備」と書いているが、最初のほうで話題になった看板の話などがここに出てくると思う。自己責任の部分も書かなければいけないと思うが、少しきつめで書いてもいいのではないか。山に入る以上、自己責任を負うリスクがあるということは書いておかないと、町の責任にされてしまう可能性が非常に高い。同じように山城山林地区の「自然解説案内板」は、すごく平坦な感じだが、「安全に関する看板」もそういうふうに書いたほうがいいのかと思う。そうしないと責任所在がどこにあるのかということになってしまう。

49 ページ、表9-4の施策の実実施計画。わかりやすくしているのはとてもいいが、黒丸をつけて、短期、中期、長期とある。別の委員会でも同じようなことがあったが、短期だけに黒丸がついていると、中期と長期はしなくていいのかと思われやすい。石垣や法面の安定化というのは短期だけでは済まない話で、中期・長期に続けなければいけない。モニタリングも安全対策も同じで、結局やるのは短期だが、継続的に見ていかなければいけないところは、線を引くか何かでうまく表現できればいいと思う。例えば山城主郭地区の一番上だと、短期が石垣や法面の安定化。でも、中期も長期も考えなければいけない。そのあたりを点もしくは線で表現して、続けるんだと。石垣修理などの復元・整備と書いてあるところは、中期、長期にも点線がついている。

<山下>

例えば39 ページ、兵庫県教育委員会で処理ができる項目が列記してあるが、これは政令の文言そのものなので、こういったものは本文に載せていることも多い。それ以外のそれを超える現状変更は38 ページで、これは法令文言ではないが、具体例として挙げている。ある程度本文のほうで、どういったものが現状変更になるのか、具体的なことがあったほうがいいのか。参考編に入ると、そこまで見ないということもあって、要所は本文に明記してあるほうがいいのか。ほかにもそういうところが多いような気がする。

<山下>

28 ページの「大綱と基本方針」のところ、私は今回初めてこの会議に出て、「利神城を巡る4つの物語を再発見し、語り継ぐ」は大変魅力的でおもしろいと思ったが、これの説明がない。ここで説明するか、あるいは第1章とか第2章の初めのほうで書いてないと、いきなり出てきた感がある。

<北垣>

今の4つをあわせていくのは非常におもしろいと思う。今ここにはストーリーはないが、この4つはこれまでの議論の中で利神城の本質的価値の一部を十分構成していいものだと思う。今言われるように第4章をもう少し煮詰めて、これの説明をきちっとしてもらうか、もう少しストーリーが先にあるとここへ出てくるのは意味がある。そのあたりを考えて、ぜひストーリーをつくってほしいと思う。

私が少し気になることを言うと、32 ページ。これは利神城だけに限らないが、最近、全国どこで豪雨があるかわからない状態になってきた。石垣の日常的な維持管理の問題は、城郭を持っている各自治体でこれからものすごく重要視されてくると思う。最近、あちこちで大きな城郭の一部が崩れているが、32 ページの下のイ、雑草、実生木の除去とか樹木の管理についても、利神城では石垣の孕み出しとか崩壊という問題が出ているが、地震は少しおいといても、自然災害を事前に防止する対策を考えなければならぬ時期に来つつあるのではないかと個人的に思う。そうなってくると、雑草という問題だけではなくて、城郭としてそこで人が住んでいる時は日常の特に排水の管理は行き届いているはずだが、放置された状態の時に、いろいろな動植物の課題もあるが、もう少し別の意味で遺構そのものに雨水が入らないような対策を考えないといけない。そういうことで32 ページをもう少し補強してもらいたいと思う。これはここだけの問題ではなく、全国的な意味で対策が必要になってくると思うので、それぞれできるところから一つずつ対策を講じるための材料提供をしていく。

<五名>

50 ページ、右下に因幡とか美作とか、これは多分、鳥取池田藩の因幡街道の宿場町が書いてあると思うが、興味のない人だと、これは何だろうかという感じなので、旧因幡街道、昔の街道ですよということを書いたほうがわかりやすいという気がする。「これは何ですか」と言われたら困るので、旧の街道を入れたほうがいい。

<福井(亘)>

利神城保存活用図なので、「図9-1」とかを入れておいてほしい。それは前の第6章も含むが、同じように入れてもらいたい。

もう1つ、43 ページの9-1で「獣よけ柵の設置」と書いているが、実際、藤木さんのほうでも柵をつくらないといけないという感じになっているのか。防鹿柵みたいなものをお城の中心部、主体部にやっていくというようなイメージか。

<事・藤木>

効果的な方法が難しい。

<福井(亘)>

シカの通りで石垣が崩落しているというのが幾つか見受けられるので、そのあたり、

何かしら書いているほうが今後の整備に使いやすいと思った。柵だけで防止できるものか。つまり、それが増えているということなのか。

<西形>

今言われたようなことは、もちろん書き込む必要があると思う。そうするとどういう形になるかというのを想像すると、よくやられているのは、縦軸に石垣の安全性、万が一壊れたらどの程度の被害が起こるかとか、横軸には石垣そのものの安定性をとって、マトリックスであらわすという方法をとる。最終的にはこういう表現が絶対必要だとは思っている。これを保存計画の中でやるかどうかは私にはよくわからないところだが、現在の石垣の状況を何らかの客観的な評価をすることは絶対必要だと思う。

<五名>

48 ページ、教育委員会のほうから宿場町イメージアップ事業ということで、こういう事業をしてはどうかといういろいろな提案をもらった。利神城跡にいつごろ登れるのかということがあって、危険のある部分はよくわかるが、少なくとも安全な範囲までは人数制限をして、多分、城跡がどういう形になっているかという説明する必要がある。見ただけでは満足しないということで、並行して山城の石積みとか歴史を説明するガイドを将来的に養成する必要がある。そのためにはガイドマニュアルもぜひほしい。将来を見越して、そういうものもつくるほうがガイド案内人を公募した時に来やすくなる。私は町並みのガイドをしているが、町並みを紹介するガイドがあるということを見せて勧誘している。利神城の歴史を含めたマニュアルをぜひつくってほしい。それによってガイド養成もできるし、案内できるということで、外部からのお客さんにも来てもらえる。ぜひともガイド養成にかかわる資料をお願いしたい。専門の人でなければ石垣がどういう構造になっているかというのもわかりにくいので、一般向けガイド用のマニュアルをぜひともお願いしたいと思う。

<西形>

城の石垣の状況が危険か危険でないかというのは、その1つの要因としては、どれだけ人が訪れているか、あるいはガイドが連れていっているいろんなことを見せる機会が多いかにかかわっていると思う。誰も見に行かなければ、いわゆる人的な事故も起こらない。そういう地道な活用をされているのであれば、やはり危険度が上がってくる。今お話にあったようないろんな活用を活発にやられているのであれば、より危険度があるという認識が必要だと思う。

<五名>

現状は、ガイドをしていると、何で上がれないんだと言う人が結構多い。登山口は行政の力で上がれないようにきちんと看板を出したが、野外だから、はっきり言ってどこからでも上がれる。何かのマニュアルがあれば、具体的な説明もできる。どこともガイドがないで、お城にまつわるガイドブックがある。利神城も、一般の方が読んでわかりやすいガイドブックが欲しい。多分 25 年、30 年という次の世代になるので、ぜひとも今の我々の世代の中でつくってほしい。専門の方がいるので、何かの形で作成してもらいたい。

それから、当面は入城制限で、ガイドなど条件付きで、とりあえず安全なところまで案

内しましょうと。やはりガイドを養成しないとイケない。それには勉強しないとイケない。安全確保ができれば、多分、登録すると思う。ぜひとも48ページの3の真ん中辺を十分に考えてもらって、将来的にガイド養成もしないとイケないので、片方ではそういう作成をぜひお願いしたい。お城の説明は概要しかわからない。町並みは大体把握しているが、どこの石を持ってきて石垣を積んだとか、それは何々積みとか、そこは赤松時代とか宇喜多の時代の石積みとか、こういう伝承があるとか、そういうことがあれば説得力があるので、ぜひともつくってもらいたい。

<五名>

地元でやってもらったらいという案をもらって、今年、実は役員を集めてやったが、県の事業や昔からの事業がたくさんあって、これは地域づくり協議会だけでは少し無理だと。そのうちの幾つかは宿場町のイメージアップ事業で当初お話があったけれども、今年はこの半分ぐらいは何とかできるということになった。この後、教育委員会に話を持って行って具体化していくということで、残念ながら登山は、上を刈って安全を確保して、安全なところまでガイド付きで限定で上げようというやわらかい企画の話を諮ったけれども、人手がないので難しい。事務方もいない。地域づくり協議会は、国指定を受けたことでいろんな事業がプラスになってしわ寄せがあるので、今年度は難しい。個人的には何人かしたい人もいるが、団体なので、皆の意見を反映すると今年度は難しいということになった。

ただ、ガイドは、専門の資料がないと難しい。我々も少しずつ勉強はしているが、伝承もあり、史実も言わないとイケない。城郭については知識があまりないので、何らかの形で研修とかがあれば参加する人もあると思う。一刻も早く安全を確保した上で限定で上げられるような状況にするために、ぜひともいろんな形で協力してもらいたい。

<北垣>

第7章から第9章にかけて意見はないか。

<小川>

現状変更の中で何点かある。38ページ、「文化庁長官の現状変更合意に必要な行為」というところで、Fの地下埋設物の設置・改修で、「地下遺構に与える影響が必要最小限のもののみ許可する」と書いてあるが、基本的には影響がないことが前提になる。

41ページの地区ごとの現状変更基準の中で、御殿屋敷地区の道路・鉄道にあるポチの1つ目、「既存道路・鉄道の維持・修繕については許可を求めて実施する」と書いてあるが、鉄道の維持の範囲はどこまでかという内容は智頭急行さんと協議する必要があると思う。この文章のままだと通常の維持行為も全部許可を求めるというふうになるので、「日常の維持管理の範囲は別途協議する」とか、何か文言を考えていく必要がある。

同じ欄の地中埋設物のところで、「公益上必要な地下埋設物は地下遺構に大きく影響のない場合には」と書いてあるが、これもほかのところは全部「遺構に影響がない」と書いてあるのに、ここだけどうして「大きく影響がない」になるのかが不思議。多分これも「遺構に基本的には影響がない場合」としなければいけないと思う。

<山下>

石垣の短期的にすることは計画の中にも「例えばこういう工法」と明示するほうがいいと思う。今検討している応急的な対策工事の内容等を示してもらったほうが、地元でも合意形成が図られることになる。現状変更の手續なり文化庁の整備の補助金で対応するにも、そのほうが整理されたものだとして了解できるので、その辺を検討してもらいたい。

<五名>

52 ページ、地域と行政と教育委員会の役割はそういう感じであると思うが、下から2番活用事業のソフト面で、「展示公開データ作成」と抽象的に書いてある。地域のだれかがこんなのをつくってするような内容か。地域でこんなことを団体ができるのかどうかという心配がある。

<事・中野>

「ガイド・情報公開、関連地域との交流事業」ということを、主にソフト事業として地元の方にかかわってもらえればと。

<福井(亘)>

表 10-1 は書き直されていくのか。「地域」だと、地域全体がやるというイメージを持ってしまいがちで、丸の大きさも二択しかないので、何か別の表現はないのかと思った

あと、全体的に言える話だが、図 10-1 とか表 10-1 という感じでちゃんと表化、図化されていてそれが本文のどこに当たるのかを入れたほうが報告書としてはいいと思う。

<山下>

佐用町はこの国指定史跡の管理団体に指定されているので、まず第一義的に佐用町が史跡利神城跡の保存や整備に主たる責任があるという立場には変わりがない。当然民有地が多数あるが、佐用町の位置づけがあるということはしっかりと明記した上で、さりながら行政だけではなかなかできないという書き方をしたほうがいい。もう少し佐用町の責務は力強く書いてもらいたい。

核になる教育委員会文化財担当部局の体制は、専門的な知見を持つ職員がいるのかいないのか、いる場合には人的な意味での質の高い体制を継続的に維持していきなり、文化財予算の確保に努めるとか、その辺をここの中でも書いていくことが必要だと思う。

<西形>

特に城の石垣を補修する時には、佐用町はどういう体制でいくか、どういう基本的な考え方でいくか、元通りに直すことを基本とするとか、そういう1つの考え方を明確に持つことが大変重要だと思う。佐用町は、利神城の修復方法の基本はこうするんだということを明確にするのが一番いいと思う。

<五名>

御殿屋敷の南側に堀があるが、半分はその形跡が残っている。これは御殿屋敷の一部に加えたらいいと思う。私個人は、あそこの堀を延ばしてコイでも放して、観光のメインポイントにしたらいいと思っている。ここに付け加えるのがいいと思う。

<山上>

今の意見は、45 ページ、整備活用のところ御殿屋敷地区の上から2行目に復元の目標

があがっているが、そこに堀を入れるのがいいのではないか。構成要素の中にも入れるのがいいと思う。

(5) 次回予定

<事>

今日出された意見をもとに、資料に修正を加えたい。全体の報告書案をつくり、それをホームページ等のにせてパブリックコメントをもらおうと考えている。承認された後、今年度中に報告書の形で印刷したい。